

(様式2)

平成 21 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570301778		
法人名	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム安塚やすらぎ荘		
所在地	新潟県上越市安塚区和田616番地子		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年1月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 自立支援の方針  
日常生活のあらゆる場面においてご利用者と職員が共働り、ご利用者を介護される一方的な存在とするのではなく、互いに助け合う中でご利用者もまた日々の生活に一人ひとりの役割を持ち、張り合いを持って生活していけるような支援のあり方を目指しています。
2. 立地、メリット  
建物周辺には山々やのどかな田園が広がり、四季折々に季節感豊かな自然に囲まれており、ゆっくりと時間の流れを感じながら、過ごしていただくことができます。旧小学校を改築した福祉施設に合築され、全体では多機能的な複合型施設として、地域福祉の中核を担っています。敷地内には、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、ショートステイの各事業所、及び社協事務局(支所)が併設され、様々な福祉サービスが展開されると共に地元の高齢者を支えるための連携が行われます。
3. 地域との連携  
運営推進会議、入所判定委員会等、第三者(地域住民、行政、医療機関等)を交えた組織を構成し、地域とのつながりを大切に、公平で適切なサービスができるように配慮しています。地域からも野菜やお米等の差し入れをいただいたり、地元住民の方々とのお交わりも徐々に深まりつつあるので、関係を大事にしていきたいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームがある建物は、もとは小学校だった建物を改築したものである。建物には、運営母体である上越市社会福祉協議会の安塚支所の事務所があるほか、デイサービスやショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所など各種介護保険サービス、地域包括支援センターも併設されている。併設事業所と協力・連携して利用者の生活を支えており、看護師による毎日の健康管理、24時間の相談体制、栄養士による助言・指導体制などがある。また、合同で行事を実施したり、利用者が事業所を行き来して知人と交流する機会を持つことも支援している。隣接して、高齢者活動促進施設「ほのぼの荘」も運営されており、ここに通う地域住民との交流も持たれている。災害時の地域防災組織体制も整備されており、有事には地域住民による「かけつけ隊」の協力を得ることができる。

職員はゆったりと利用者に接しており、ホーム全体に穏やかであたたかい雰囲気がある。職員は、時間をとって個別に利用者の話を聴くなど、本人の要望や不安を受け止める姿勢を持っており、利用者も職員に自由に希望を伝えている様子がうかがえた。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和」を掲げ「おもいやり、まごころ、明るい笑顔」を事業所独自の理念としサービスを提供している。地域に根ざした福祉サービスの推進を目指す社協としての法人理念も念頭においてサービスを提供している。	法人理念である「サービスの質の向上・住民参加による地域福祉の推進・利用者本位」を基に、ホームの理念を作成し、ケアを提供している。全員が集うリングに理念を掲示するとともに、月1回の定例会議では理念を確認しながら日々のケアでの気づきを話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、また地域の方からも行事に参加していただき、交流の場を設けている。地域のボランティア、地元中学生の職場体験を受け入れ、安塚学園との交流を行った。	踊りのボランティアと茶話会をしたり、野菜の差し入れを頂くなど、地域の方との交流が持たれている。併設施設全体で10月に開催する祭りも地域の方との交流の機会となっている。平成21年度は、国体会場で地域住民と一緒に応援をしたり、悪天候で参加はできなかったが、地域の夏祭りや新年会のお誘いも受けた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉サービスを担う人材の育成に協力し、訪問介護員2級実習生の受け入れを積極的に行っている。地域からもボランティアを受け入れ、事業内容の理解を求めると共に、必要に応じて介護のアドバイスをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、昨年度の外部評価結果を報告し、メンバーからも理解をいただいた。災害時の避難について、誘導の難しさが指摘されていたがホームベランダに避難用滑り台が設置されハード面での改善につながった。	運営推進会議は、利用者、家族、自治会長、民生委員、老人クラブ会長、行政担当者、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。外部評価結果や現況報告等を行い、話し合いの内容を運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員から運営推進会議、入所判定委員会に参加してもらい、公平でより良いケアサービスが提供できるように関係を築いている。今年度は市との連携のもと利用者の安心安全のため、避難用滑り台を設置することができた。	行政担当者が運営推進会議・入所判定委員会のメンバーになっており、また、複合施設全体として行政担当者・保健師等が頻繁に来訪していることから、顔なじみの関係ができており、日頃から密な連携が取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き(厚生労働省)」に照らし管理者は身体拘束が行われないように配慮するとともに、職員の言葉や薬物の過剰投与によって利用者の尊厳が損なわれることのないように目配りし、職員にも理解を求めている。	管理者は、職員の利用者への対応や言葉などに気になることがあれば、その都度または定例会議等で話し合うようにしている。また、安定剤や眠剤などの薬剤の使用を安易に検討しないことを、折に触れて職員に伝えている。建物2階にあるホーム入口は施錠されておらず、自由に出入りできる。	今後、身体拘束に関する職員の理解や意識がさらに深まるよう、関係法令等の研修や事例検討などの継続的な実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんのこと、精神的虐待に当たるケースはないか常に確認しあい、些細なことでも利用者の尊厳を損なうようなケアのあり方を見直すよう努めている。	管理者は、虐待防止の研修会に参加し、その内容を職員にも伝達して共有している。身体的虐待だけでなく、精神的な虐待についても、毎朝のミーティングや定例会議等で日々のケアを振り返り、話し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、法人の呼びかけにより、全職員対象として成年後見制度について、理解を深めるための学習会を行った。現利用者についてはご家族の支援があり、現在のところ制度活用には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度4月より利用料金を改定したが、全利用者(ご家族)対象に事前説明会を開き、改定についてご理解・承認を得ることができ、契約の更新手続きをスムーズに行うことができた。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族代表からも運営推進会議メンバーの一員となっただき、サービスや運営について発言できる機会を提供している。	運営推進会議に利用者、家族の代表から参加してもらい意見を聞く機会としている。また、家族の来訪時には積極的に声をかけて意見を聞くようにし、運営に反映するよう努めている。平成21年度からの利用料金改定に伴い家族説明会を開催した際には、併せて意見交換も行った。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、月一回の定例会において、職員の意見を聞き、サービスに活かせるように配慮している。	毎朝のミーティングや毎月の定例会議など、職員間で意見交換する機会を設けており、管理者は、職員の意見や提案を運営に反映するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合とも折衝しながら労基法関連法の遵守がされている。現場の状況に応じて職員の補充を行うとともに、サービスが滞りなく実施されるように配慮されている。また年一回の自己申告書を受け、職務に関する職員個々の声を聞いていただける。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新任職員研修を徹底し、組織人・サービス提供者としての基本姿勢が徹底されると共に、事業所内では個々のキャリアに合わせ、認知症介護実践研修等を受講させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は実践者研修、リーダー研修での交流のほか、事業所同士の連携により職員が市内の同業事業所に赴き、交流研修を行い、他施設の現状や良いところを学ぶことができた。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前の事前訪問等でご本人の直接の声を聞き安心していただけるように配慮している。ご本人からの聴取ができない時は、ご家族やサービス担当者から情報を集め、ご本人にとって適切な環境が提供されるように努めている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを受け止め、支援の方向性を決めると共に、入居後もご家族の果たす役割があることを理解していただき、ご本人とご家族、職員とご家族の良い関係が保たれるように配慮している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所となる前に入所判定委員会において、ご利用者が当サービスの受給者となる必要性・妥当性について審議される。サービスの開始に当たっては、面接を通して必要な支援内容を見極めるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者にとっての生活の場であり、職員は時に家族のご利用者と共に生活を送る気持ちで寄り添うことを大切に考えている。個々に合った役割をもっていただき、相互に助け合いながら自然な関係を築けることを目標に努力している。	
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いをはじめ、面会や、ご利用者の要望に合わせた定期外出・外泊にも協力していただいている。行事にはなるべくご家族の参加を呼びかけ可能な限り出席いただいている。	受診の付添いは原則家族にお願いしている。また、本人の希望に応じて年末年始やお盆等を自宅で過ごせるよう家族に協力を依頼したり、来訪機会の多くない家族には、電話で本人の生活状況を伝えるとともに来訪を働きかけている。事業所の行事にも家族の参加を呼びかけている。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していたデイサービスへの参加や、入所前に参加していた会への参加を促している。親類縁者の面会等を歓迎し、訪問者を労いながら個々が大切にしてこられた関係が続くように支援している。	ショートステイ事業所が併設されており、そこを利用する知人と交流できるよう支援している。また、親戚や知人、婦人会の仲間等と一緒に、隣接する高齢者活動施設「ほのぼの荘」で過ごす利用者もおられる。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が互いに声がけし助けあっている姿を見守りつつ、ご利用者同士の関係性を把握して、良好な関わり合いが保たれるよう、常に気配りしながら必要に応じて人間関係の調整役となるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され特養に住み替えられたご利用者にお会いする機会があった。相談支援を必要とする場面ではなかったが、これまでの縁を大事にし、必要に応じて耳を傾け協力する姿勢を大切にしたい。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活であるので、最低限の日課・ルールは決められているが、一人ひとりの希望やその時々気分・意向を尊重し、無理強いのないように個々のペースに合わせて柔軟に対応している。	利用者から要望を聞いたり、意思表示が困難な場合は、本人のしぐさや表情をよく見て思いや意向を把握する様努めている。生活のペースやリズムは個々の希望や状態に合わせている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者からの情報提供やアセスメントを通じて、これまでの暮らしの全体像をなるべく把握しサービスに役立てられるように努めている。	入居時は、管理者と生活相談員が自宅を訪問して本人や家族からこれまでの暮らしの様子を聞いたり、入居前に利用していたサービス事業所やケアマネジャーから情報収集している。入居後も、必要に応じてこれらの関係機関から情報を得ている。	入居時のアセスメント記録はあるが、その後はアセスメントツールは使用されておらず、日々得られた情報は介護日誌等に記録している。得られた情報をより介護計画に反映しやすいよう、アセスメントを定期的・継続的に実施して情報を積み重ねることが望まれる。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で行う日々の観察、記録を通じ、状態を客観的に見極め支援につながるように配慮している。日々のミーティングにおいては近況を把握するため、日常的に情報共有を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成後も、必要に応じてご家族や介護担当者からの気づきや意見を反映できるように計画の見直しを随時行っている。	介護計画は、利用者本人から聞き取った要望や、家族の意見をもとに、職員が意見や情報を出し合って話し合い、作成している。利用者の状態変化があった場合は、日々の申し送り時や定例会議の際に話し合い、必要に応じて変更している。	日々の情報を整理し介護計画に反映しやすいよう、アセスメントを定期的・継続的に実施することが望まれる。また、サービス担当者会議についても、継続的開催や本人・家族の参加など、さらなる実施方法の検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の積み重ねの成果を記録に書きとめ、情報共有を図りながら、定例会時のカンファレンス等で支援内容を見直すと共に、必要に応じては日々臨機応変に職員間において支援内容を見直し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の重度化に対応するために、併設施設の看護師との日常的な連携を深め、健康管理がきめ細かにできるような体制を構築した。夜間は待機看護師によるオンコール体制を整備することができた。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の検診を受けたご利用者が、保健師より個別に健康指導を受けられた。ご家族協力のもと行きつけの美容院に連れて行っていただいた。花ロードや国体など地域の行事に参加し、住民等と触れ合うことができた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的にご家族に付き添いをお願いしている。入所に当たり、希望される場合は、定期・臨時に往診が受けられる当ホームの協力医療機関へかかりつけ医の変更をしていただける。	本人、家族の希望に応じたかかりつけ医としている。本人、家族が希望する場合は、ホームの協力医療機関をかかりつけ医に変更することもできる。協力医療機関からは定期の往診のほか、ホームでの健康診断・予防接種、緊急時の対応を受けられる体制がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝・夕に併設事業所看護師の巡回があり、ご利用者の状態を伝えと共に、健康上のアドバイスを得る機会を設けている。夜間は待機看護師のオンコールにより急変時の対応に備えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時は、救急車に同乗し、状況がわからないご家族に代わり、医療関係者へ状態の伝達がスムーズに行えた。入院中の状態について担当看護師から状態を聞きながら、現在経過を把握しながら対応を行った。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り、ホームでの生活を継続していただく方針であるが、重度化したときに備え、入所と同時に特養申請をお願いしている。医療看護との連携も不十分であり、施設内での見取り体制はとられていないが、過去には状況に応じてご家族の付き添い等協力を得ながら対応した事例もある。	入居時に、本人・家族にホームで出来ることと出来ないことを説明している。本人の状況に応じて、本人・家族の意向を汲み取りながら、医療機関との連携を図り、可能な範囲で重度化や終末期に対応している。現在までに2人の方がホームでの最期を迎えられた。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救急救命講習を受講し、心肺蘇生法やAEDの使用法を身につけるべく学んでいる。	全職員が定期的に心肺蘇生法やAEDの研修を受講している。保健所が毎年主催する感染症研修会にも出席し、対応方法を学んでいる。これらの研修に参加した職員により伝達報告が行われ、他の職員にも周知されている。また、併設施設の看護師が1日2回来所して利用者の健康状態を把握しており、夜間も電話で相談できる体制がある。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や行政、防災業者、地域住民の協力のもと年2回の防災訓練を通して、非常災害時にご利用者を速やかに避難場所へ誘導するための訓練を行っている。今年度は人員が少ない夜間を想定して、速やかに誘導介助できるよう訓練を行った。	年2回、行政や消防署、防災事業者等の協力を得て、利用者も参加して避難訓練を実施している。夜間を想定したり、車椅子の利用者を2階から避難させるなど、実際の場面に即した訓練を行っている。また、災害時の地域協力員も確保されている。備蓄品も準備している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室においてはプライバシーが守られるように、職員が訪室する際は、ノックをはじめ声がけ確認に配慮している。入浴や排泄介助おける身体介助の際は個々の羞恥心に気を配り、的確かつ迅速な対応を心がけている。	居室の入口にはのれんをかけて室内が見えないよう目隠しをしたり、浴室が広いので仕切りのカーテンを設置するなど、プライバシーに配慮している。トイレ誘導の声かけも、さりげなく、他の利用者にはわからないように工夫している。	方言が飛び交う、温かくゆったりした雰囲気ができているが、今後も、職員の言葉や対応が利用者の尊厳やプライバシーを損ねるものではないか、会議や研修等で振り返りや確認をする機会を継続的に持つことを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は毎日、一人ひとりに向き合う時間を作り、意識的に一人ひとり合った声がけを行うことを通じて、ご利用者からの発話や感情の表出を促すような関わりを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れに乗っていただけるように一定の声がけ誘導をさせていただくが、個々の気分には配慮し、席を移動したり、居室で食事を摂ったり、時間をずらす等必要な支援を行っている。余暇の過ごし方についてはご利用者の要望も取り入れながら実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、お化粧されるご利用者を賞賛した。ご家族協力のもと定期的に理美容院へ外出したり、訪問理美容サービスを活用したり、男性は髭剃りの援助を行って一人ひとりに合った身だしなみが整えられるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きなご利用者が職員と共働き積極的に台所仕事に関わるように配慮している。経口摂取が続けられるように個々に合った食事形態を提供している。ご利用者の好みを考慮して、おはぎ作り、干し柿作り、コロッケ作り、枝豆もぎ、ズイキの皮むき等々一緒に楽しむことができた。初挑戦の梅干作りはおいしくできた。	敷地内の畑で利用者と一緒に行った野菜を収穫しメニューに取り入れたり、可能な範囲で利用者の希望に応じてメニューを変更するなど、柔軟に対応している。下ごしらえや盛り付け、食器洗いなど、利用者と一緒にいき、食事づくりを楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は併設事業所の栄養士の献立を参考にバランスよく調理している。医師等の指導を受け一人ひとり適量になるように心がけている。食事のみでは栄養補給が不十分な方は栄養剤を併用して栄養補給に努めている。個々の能力によっては居室にポットを所持し、好きなときにお湯を使用できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを促している。状態を見ながらうがいや難しい方は口腔清拭を行っている。また食事時の咀嚼の様子を観察し、訪問歯科診療を活用した。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要なご利用者には排泄の失敗がないように排泄チェックを行いパターンの把握に努めている。一人ひとりに合った時間間隔でのトイレ誘導により、夜間には下着を替えることが少なくなった方もおられる。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、その人に応じたトイレ誘導を行っている。そのような支援により、失禁が減り、オムツを使用しなくなった利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な方については、日々の排泄状況をチェックし、適正な間隔で排泄が確認されるように、医師・看護師と連携しながら服薬対応も行っている。バランスの良い食事を心がけ一定の食事量と十分な水分の確保を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホーム内に入浴室がなく、やすらぎ荘全体の入浴室を共同利用している。個々の身体状況に合わせて、また公平に入浴していただけるように入浴日の割り振りを決めていくが、個々の気分やその時々々の体調を考慮し、入浴日や時間を変更する等柔軟に対応している。	ホーム専用の浴室がなく、共同の浴室を利用しているため、一般浴の利用者は週3回9時過ぎから、機械浴を使用する利用者は週2回と入浴日時が決まっているが、利用者のその日の体調や気分により入浴日・時間を柔軟に変更している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は定期的に居室を巡視してご利用者が気持ちよく睡眠できるよう室温・湿度等に気を配っている。眠れないご利用者には無理に睡眠を促すことがないよう寄り添うことを第一に安心していただけるように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師未配置のため、管理者が責任を持って服薬管理を行っている。安全・確実に服薬していただけるよう日々の業務の中で振り返りを行い配薬方法、介助方法も個々の能力に合わせた対応を行っている。処方明細についてファイルし必要時に振り返ることができる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や職歴、能力を活かし、生活の中では食事作り・食器洗い・洗濯物畳み等の役割を持っていただいている。また個人が楽しみとして行う編み物等趣味活動も奨励している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣には資源が乏しく、また職員体制等から日常的に外出にお連れすることが難しいが、ご家族の協力を得ながら定期外出をしていただいたり、ご利用者の希望がなるべく叶えられるように配慮している。天候の良い日はご利用者の希望を聞きながら建物周辺を外気浴に散策している。	職員体制等により、日常的に個別の希望に応じた場所への外出支援が困難な状況はあるが、天候の良い日は、畑に出たり、敷地内の散歩を随時支援している。また、外出に家族の協力を得たり、知人が迎えに来て隣接する高齢者活動施設「ほのぼの荘」へ遊びにいづく利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の預かり金は事業所が責任を持ってお預かりするシステムとなっているが、個々によっては金銭の所持をよりどころとされているため、個々の思いを尊重しご家族と協議しながら、金銭を所持していただいている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じホームに備え付けの電話を使用していただけよう支援している(通話料は別途徴収)。郵便はがきの利用はないが、ご家族とノートでやり取りを行う方については、職員もノートの内容を整理してご本人にお伝えし安心していただけるように配慮している。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度は業者により施設清掃が入りワックスがけを行いリビングが明るくなった。リビングは全面フローリングであるが、コタツを設置して靴を脱いでくつろげるコーナーを設けている。決して広いとは言えないが、テーブルの配置等を工夫し、歩行車を使用する方や車椅子の移動に配慮している。室内には季節の草花を活け季節を感じていただけるよう配慮している。	リビングは明るく、テーブルやソファ、コタツなど思い思いに過ごせる場所がある。リビングの椅子は、それぞれの利用者にお気に入りの場所があり、クッションを置いてくつろげるようにし、また、その日の気分により好みの場所が変わることがあるので、トラブルにならないよう職員が配慮している。室温や湿度にも配慮し、暖房で乾燥する冬季は加湿を行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル席には一人ひとりの座布団を設置し、安心していただけるように一応自分の席が決められているが、談話時は席を移動させる等配慮している。ほかに、ソファ、コタツを設置してご利用者がその時々で自由に使用できるように配慮している。			
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力いただき、自宅で使用していた家電や日用品、使用しやすいテーブルや椅子等の家具を持参頂き、居室の広さや動線に配慮しながら、設置していただくようにしている。居室内に押入れがないので、消耗品の保管場所の設置を討っている。	居室には自宅で使い慣れた家具や品物を自由に持ち込んでもらったり、家族との写真や昔の写真などを飾り、安心して過ごせる空間づくりをしている。感染症対策の一環として、家族の協力も得て居室に加湿器を設置している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な居住空間であることを念頭に置きながらも、トイレの案内板や個々に必要と思われる工夫を行い、ご利用者が共同生活住居の中で極力自身の力で自立した生活を送ることができるよう配慮している。			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					